

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本とし、毎朝、夕に出勤職員全員で唱和を行っている。 また、法人理念に基づき部門目標を掲げ、ホットして暮らせる環境作り、地域における福祉のファシリテーターを担う事の具現化に取り組んでいる。	法人の理念を十分に理解した上で事業所の部門目標を掲げ、朝・夕礼時等に唱和している。日々のサービス提供場面の中で、管理者・職員が常に立ち戻る基本的な考えとして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩の実施し、出会うご近所の方との会話を楽しんだり、市内量販店へ定期的にご利用者様と共に買い物に出かけている。 年2回の総合防災訓練では、毎回地域住民の方にご参加いただき、有事の際の協力体制の構築を図っている。毎年の行事として、『縁日』を開催し、お年寄りから子供さんまで毎年多くのご近所の方々にご参加いただいている。	同じ敷地内の隣接した介護老人福祉施設と一緒に自治会に加入しており会費も納めている。地域住民に向け防災訓練やホームの催し物等、常に情報を発信している。定期的にボランティアの受け入れもしており、特にアニマルセラピーは利用者にとって楽しみなイベントの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の職員の講師派遣、講演会等の開催は基より、グループホームの特質である認知症の周知の一つとして、「認知サポーター研修会」を地域の方対象に企画、開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回実施。御利用者様は基より、ご家族様代表、広域連合担当者、市担当者、地元区長、介護相談員など様々なお立場の方にご参加いただいている。広域連合よりご提案いただいた書式を基に運営状況を報告すると共に、ご利用者様の日常の生活をスライドショーで観ていただくことで、実際の生活状況をお伝え出来るようにしている。	利用者家族、地区区長や広域連合職員、市介護福祉課職員、介護相談員等が出席し、職員との双方向的な会議が定期的開催されている。利用者の状況やケアの実情等について参加者の理解を得られる取り組みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護相談専門員2名の来訪により、日常の様子を把握していただくと共に、運営推進会議にて実状の周知が出来ている。	運営推進会議に出席されている市役所の担当者や広域連合担当部署と良好な関係がとれている。市の介護相談員が来訪した折にパワーポイントで利用者の普段の表情等を見ていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。但し、施設の周辺状況、職員の配置状況を勘案する中、日中の内錠の開閉が可能でも、夜間等防犯上の問題から施錠が必要な事が多々ある。「身体拘束とは何か」を日々教え合う環境作り心掛けている。	職員は研修や勉強会等を通し、身体拘束による弊害を正しく理解しており、利用前に家族にも説明がされている。また、外出傾向のある利用者には見守りや声掛けで対応し、気分転換のため散歩に出掛けることもある。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に心身に障害のある方の尊厳について考え、その人らしく人生を送れる様な環境整備を行い、人格を尊重出来る言葉掛けに心を配り、不適切な言葉遣いに遭遇した場合、互いに注意を促せる職員教育を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に個々の生活状況の把握に努め、適確なアプローチが出来るよう情報交換を行っている。制度については、法人内研修等において理解を深めている。		
9		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧な説明を心がけ、施設として出来る事、ご家族様に協力いただく事をしっかりと説明させていただいている。解約の際にも、双方納得の上行うように十分な説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“運営推進会議での意見交換、介護相談専門員の来訪受け入れなど、ご利用者様の不満、苦情、想いが施設内に滞ることのないよう環境作りを行っている。 施設内にも意見箱の設置を行い、自由に投書が出来るようにしており、寄せられた意見等は必要に応じて上長より職員へ周知するようにしている。”	利用者のほとんどの方は自分の意見を言うことができる。思いや意見を伝えられない方には時間をかけて聴くようにしている。また、家族等が来訪した折には意思疎通をはかるため要望や意見を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回施設全体会議を実施。委員会報告等を行いながら、施設全体の問題点の抽出、検討、改善策の具現化を図っている。	毎月第三水曜日に全体会議が行われている。欠席者には2名の委員から会議の内容が伝えられ、文書でも報告されており、周知徹底が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人就業規則に基づく時間管理等を行っている。雇用条件に則り、公休、有休の取得は職員の希望に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会の情報提供を行い、参加希望者への勤務調整をしている。また、職員同士の指導が円滑に行える環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内各施設での研修会、事業所連絡会主催の研修会等に職員の参加を促し、学習の場の提供としている。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を大切にし、ご家族様、ご利用者様の現状の理解と、ニーズ把握を行い、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴の姿勢に努め、良き支援者であろうと努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズ把握をするとともに、専門職として知識と経験を活かし、その方の生活を支える為に必要な手立ての伝達へも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には嫁となり、時には娘、母となり、我が身に場面を置き換えながら、ご利用者様に向き合う姿勢を取れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に御出でいただくご家族様への敬意を忘れず対応し、施設内エピソード等もお伝えしながら、新たにご本人様に纏わる情報収集が出来る様、一つ一つの会話を大事にしています。施設便りの発行も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴に重きを置き、出来る限りご本人の思いが実現できる様外出計画の立案、友人、知人、御親戚の方の受け入れ等、特別な事情が無い限り、制限無く行っている。	年賀状が届いたり、知人等の随時の訪問を受ける利用者がある。「思いの実現」ということで、自宅近くにある神社や高速道路のサービスエリアへお茶を飲みに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人を大切に考えながらも、寄合過ごす時間が持てる空間の設定や、会話のきっかけの提供等に努めている。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご相談窓口として対応させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを大切に、その時の言葉、表情、行動を受け止め、その方の立場になって思考を巡らせ、カンファレンスに活かせるよう努めている。	利用者の生活暦や家族等からの聞き取り、利用後の日々の心身状態などを把握し、思いや意向を表情や言葉から推し量っている。言語によるコミュニケーションで判断するよりも表情から汲み取るほうが良い場合もあり、利用者毎にきめ細かく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を念頭に置きつつ、ご利用者様、ご家族様と交わす会話や関わりの中から関連性の把握に努め、職員間の情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のミーティングでの状況報告と、個々人の経過記録への落とし込みにより、見る事、聞くことでの現状理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の心身状況の理解の把握に努め、その人らしく生活ができる視点でカンファレンスを行い、変化についてはご家族への情報提供と共にニーズの把握を行い、計画を作成するように努めている。	職員は一人から二人の利用者を担当しており、きめ細かい見直しや適切な計画作成に繋がっている。また、利用者に状態変化が見られた時には管理者が随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常経過記録は、5W1Hを基本に様子が伝わり易いように記録をし、申し送り事項との不具合が生じないように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内各施設との情報交換、情報共有を密に行い様々なニーズに柔軟に対応できるよう努めています。外出・外泊の希望にも、特に制限を設けず対応をしている。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へ買い物、ボランティアの受け入れ、一緒に行う地域参加型行事の計画、立案に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に協力医療機関の説明を行い、かかりつけ医として同意をいただいた上でご入居いただいている。	毎週一回、問診を含む検診があり、記録を取っている。また、半年に一度、細部にわたる検診も実施されている。訪問看護師が火・水・金曜日と訪問しており、手厚い医療体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々人の身体状況の把握に努力し、変化についての報告、連絡、相談の徹底に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携、情報交換によりスムーズな入退院が出来る仕組みが整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人マニュアルによる重度化における指針を掲げ、入所前にも説明を行っている。ご本人、ご家族の思いを傾聴しながら、医・介・看のチームケアが出来る仕組みを整えている。	利用開始時には家族に重度化した場合等について十分に説明がされており、看取りなどの現実に遭遇した場合にも家族に説明がされている。看取りなどの必要性が生じた場合には同じ敷地内にある介護老人福祉施設より看護師が来訪したり医師との連携もとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、医療連携手段を整備しており、法人及び施設単体においても緊急時対応の研修、訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の法定総合防災訓練に加え、地震想定訓練、災害時伝言ダイヤル使用訓練等ミニ訓練を実施している。年2回の防災訓練には必ず地域の方々にご参加いただくようにしている。	年2回地域住民と一緒に防災訓練を行っている。今年度は夜間想定防災訓練を実施し、自治会からの協力も得られている。また、岡谷市防火協会自衛防災協会の大会に職員が参加し準優勝の栄冠に輝いた。普段からの高い防災意識と日頃の訓練が形となって現れている。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の尊厳に配慮出来る言葉掛けの対応を心掛け、不適切な状況があった場合には、互いに注意が出来る職員関係の構築に努めている。	職員はその人らしい尊厳ある姿を大切に、一人ひとりを尊重し、言葉掛けや対応に配慮されている。個人情報に配慮しつつ、利用者一人ひとりの日々の暮らしの場面を写真とコメント入りで記録し、思い出として大切に綴り、各家族あてに届けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、傾聴に心掛け、想いの実現が可能になるような対応に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルは定められているが、あくまでご利用者様の生活の場であることから、可能な限り要望、希望に対して臨機応変に対応することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅等でお召になっていたものをご持参いただき、入所後も大きく身だしなみが変わることなく、その方らしく暮らしていけるよう配慮している。おしゃれ等についても、ご本人の意思を尊重して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望献立の立案を行い、一緒に買い物に出掛け食材の購入をし、食事作りをするというプロセスで行っている。準備、片付けについても無理の無い範囲で一緒に行っている。	利用者各自の嚥下や咀嚼機能に合わせて、ミキサー食、刻み食、おかゆ食と形態に工夫をされている。食は楽しみの一つと考えられ、器や盛り付けも彩りよくされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心身機能の把握をする事で、個々人の必要摂取量の統一化、状況の変化に応じた水分量の増減への対応がスムーズに出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状況、ご入所前の生活習慣等を考慮しながら、それぞれに合ったケアを行っている。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表も使用しているが、個々のサイクルを尊重し、見守り支援を基本としている。	見守りの方、普通の布パンツの方、おむつ使用の方と多様であるが、本人や家族の希望を尊重しながら対応している。排便や排尿の時間等については職員がパターンを把握しており、声掛け、誘導を行っている。職員は誘導や見守りの際、利用者の自尊心に配慮し、さりげない支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本とし、食事への工夫、適度な運動の継続、姿勢の保持等に配慮した支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はしているものの、個々人の心身状況に合わせて柔軟に対応できるようにしている。入浴時間が楽しい時間になるよう、職員との会話、浴室内の環境整備に努めている。	入浴については利用者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調にあわせ、入浴方法や回数など臨機応変に対応している。入浴剤も使い楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人への生活習慣等への配慮を行い、安眠・休息がとれる時間的環境が整っている。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の病歴を把握する事により、処方内容・目的・副作用についての理解は出来ている。服薬の必要性を含め、個々に説明や服薬支援を行い、特変状況等を主治医に密に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	『出来ることを出来るだけ』を基に、拭き掃除、片付け、カーテン開閉等自宅環境をイメージしながら、無理のない範囲で行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望には出来る限り希望に答えられるよう努めている。ウッドデッキの活用により、より多く屋外に出る機会を設けている。	夕飯に食べたい物があるので買い物に出掛けたりしている。隣接の特別養護老人ホームの企画「桜街道の見学」に同行している。日常的に戸外へ出掛けられるように取り組んでいる。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人が実際に現金を使用出来る環境では無いが、希望物品、嗜好品等の購入は買い物に同行していただき購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応を行っている。その際、ご家族様側への気持ちへも配慮出来る対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々、花鳥風月を意識し、施設環境を整える努力をしている。	玄関や居間には生花がいけられ、季節の飾りつけもされ、暖かい雰囲気作りがされている。南側に面した大きな窓からは庭の風景が一望でき、明るい日差しが差し込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置に配慮し、個々の時間を大切に過ごせるよう、心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの物の持ち込みを勧めている。ご本人、ご家族と相談しながら、その人らしい暮らしが出来るよう随時工夫をしている。	居室には馴染みの使い込まれたタンスや利用者の作品・写真等が持ち込まれ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度にならない手すりの設置、トイレの明確化、居住空間の個別化等、プライバシーに配慮した工夫が出来ている。		